



SSS
SHIGARAKI SHARE STUDIO



SSS
SHIGARAKI SHARE STUDIO
シガラキ・シェア・スタジオ



シガラキ・シェア・スタジオの想い



シガラキ・シェア・スタジオは、2016年から共同の陶芸スタジオの運営をはじめ、2018年に法人化、2021年11月、信楽に2つ目の工房ができました。現在、それぞれでアーティストが作品の制作をしています。

スタジオを、主に外から来るアーティストに貸し出し、長期滞在、暮らせる仕組みづくりの一端を担い、「モノづくりをするクリエイティブな人たち」に信楽の魅力を発信したいと考えています。目指しているのは、陶芸、アートを基軸としたクリエイティブなワーキングスペースです。

長野スタジオに隣接する店舗は、2021年秋にリフォームし「ギャラリ&キッチン@シガラキ・シェア・スタジオ」として再生しました。

スタジオ、ギャラリー、キッチンを併せ持つことで、いろいろな人が楽しみながら交流できる場所、陶芸を核にしたコ

セラミック・ワンダーランド

これはシガラキ・シェア・スタジオの主宰者である杉山が2005年1月号の「陶説622号」に寄稿した文章で、シガラキ・シェア・スタジオの考え方の基本となったものです。一読いただければ幸いです。

セラミック・ワンダーランド Ceramic Wonderland

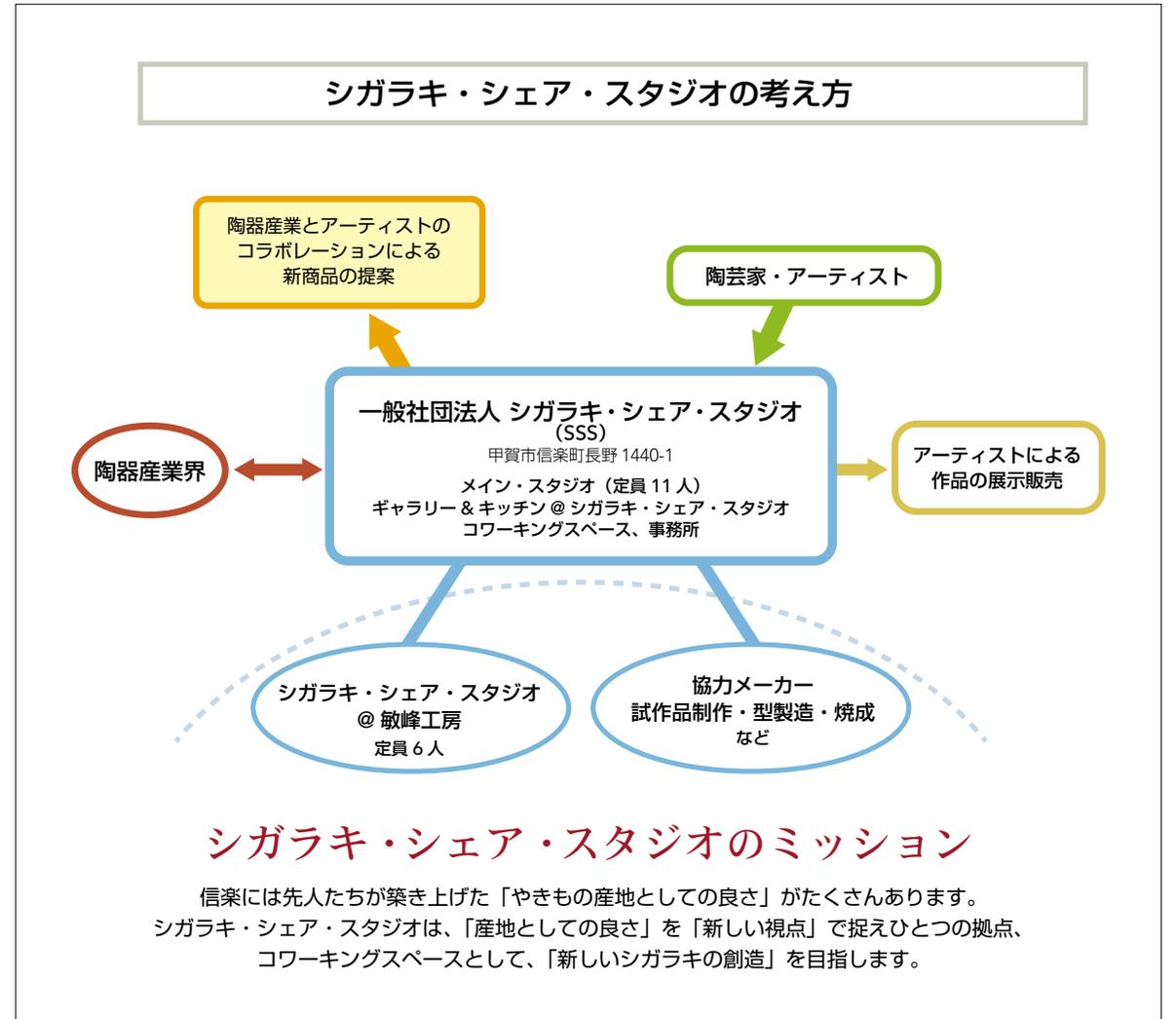
原稿のお話をいただいた時に何を書かせていただくか若干迷った。しばらくして、考えついたのがやきものテーマパーク「セラミック・ワンダーランド」(?)のことである。もっとも、この「セラミック・ワンダーランド」、あくまでその概念が私の中にあるだけで世に認められた実体としては存在しない。

それでは、私のイメージとしての「セラミック・ワンダーランド」の世界にどうぞ。今の日本のやきもの人口は概ね次のよ



うに分類されると考える。日展や日本工芸会など古くからある業界のシステムにかかわっておられるいろいろな肩書きをお持ちの方。いわゆる前衛を押しとお

すベテラン作家たち。大学などで教鞭を執る中堅、そしてこれからやきものを生きた別の視点で見ると主として産地で活動するベテラン技術者たちがいることも見逃せない。その産地にかかわろうとするデザイナー、陶芸家たち。それと美術館を拠点とする研究者たち。作家と買い手の間をとりもつギャラリー、バイヤーたち。メディアに属する人たち。以上は、とりあえずプロとよばれている人たちである。そしてそのほかに大学でやき



ワーキングスペースとして、やきもの街 信楽に人を呼び込み、また人が定住でき、育まれるきっかけになるのではと考えています。

地域で収穫した農作物を使った料理教室、陶産地信楽の特性を活かし、うつわを制作されている方と食品関連の仕事をされている方のコラボ、マーケティング調査の会場、将来、飲食店をやりたい人のトライアルの場、さらに、町内会などの地域コミュニティの方も使用していただくなど、様々なことを試みられる場所に育てたい、それがシガラキ・シェア・スタジオの想いです。

一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ
代表 杉山道夫

ものを学ぶ学生たち。各地にある陶芸教室、カルチャーセンターで学ぶ優れたアマチュア陶芸家。以上がおおざっぱではあるが陶芸関連人口の内訳である。

これらの多くの方にながしかの出版が求められるのが「セラミック・ワンダーランド」である。

個人個人の感性が陶芸をやっていくうえで重要なのはあたりまえであるが、優れた環境は創作の可能性を増すからである。「セラミック・ワンダーランド」の環境設定には以下ことが不可欠である。

- 一 原材料が豊富にあり、ほしい材料がすぐに手にはいること。
- 一 いろいろな種類の機材、道具が周りにあり貸し借りができること。
- 一 若手からベテランまで様々な方向性を持った同業の士が周りにいること。
- 一 客観的評価ができる者が周りにいること
- 一 近くに販売網の拠点があること。

こんなものづくりにとつて、恵まれた環境ってどこにあるのだろうか。

私にとつてもこんな環境は「夢」なのだ
が、比較的近いのは昭和頃までの「や
きもの産地」ではないだろうか。

京都は、五条坂に共同の登り窯があっ
たと聞く。付近に工房を構える陶工が窯
が焚かれるたびに製品を持ち寄ってくる。
そんな風景は今もうなくなってしまった。

信楽では、登り窯が何十基も煙を上げ
ていた時期があるという。窯焚き職人は
それらの窯を渡り歩いてきた。また、窯
を築き直すときには、「結い」という焼き
屋さん(窯元)の互助組織で皆労力を提
供して助け合った。そんな習慣があった
そうである。

私のいる信楽についていえば、このこ
ろ結構京都から作家さんが焼き屋に入
りしていたらしい。焼き屋さんで花器の
原型をつくるかわりに自分の仕事をさせ
てもらったり。先輩方からそのような話
はよく聞かせていただいた。焼き屋と陶
芸家の非常にゆるやかなシステムできち
んと結びついてきた。そのような雰囲気
があったと聞く。

らのデータ収集も欠かせません。

そして、上記の情報のまとめ役が必要
になってきます。

そのようにして、産地の現状把握がで
きたら、その情報を皆で分かち合わなく
ては美業にプラスにはなりません。特に
若手への技術、情報の伝授がどうしても
必要です。概して、若い人はこんなこと
には無関心かもしれません。だとしたら
そこにある種の仕組みが必要になってく
るでしょう。

それと、常に若手を入れて産地の新陳
代謝を活発にする必要があります。大学
をはじめ多くの教育機関では「やきもの
志望者」を量産しています。学生の中で
特に優れた人、可能性がある人を産地に
リクルートする必要があるでしょう。今
の若い人たちは工場に勤めることを求め
ていないように思われます。ということ
は、企業(工場)と従業員という従来の
関係ではないもつとゆるやかな関係を工
場と若い人の間で確立しなくてはなりま
せん。このリクルート作戦には先程述べ
た産地が持っている物理的な財産、資産
が産地の魅力付けに欠かせません。



また、焼き屋さんのなかにも人材育成の
システムがあったように聞く。優れた技
術者が、(こわくて気むずかしいおっさん
かもしれないが)工場長として現場を仕
切っておりきびしいかもしれないが、そ
こで働いていけばやきものいろいろな技
術を学ぶことができる。また、生産ライ
ンの一部ではなくやきものづくりの全体
像が見渡せるようになっていたのではな
いかと思う。

なんだか、私も知らない昔の話、しか
も伝聞を書いてしまったが、このような
環境の中に間違いなく「セラミック・ワ
ンダーランド」の核心があると思うのだ
がどうであろうか。

私の考える「セラミック・ワンダーラ

常に若い人が出入りできる環境、その
うで産地の中で彼らのレベルアップを
はかる教育システムが必要です。これに
は、先に述べた人的な財産、資産の活用
が有効でしょう。

概して産地の中にどっぷりつかってい
ると、他産地のあるいは有名作家のワー
クショップなどがよく見えてしまいます。
灯台元暗しではないですが、案外身近な
ところを見逃しやすいように思います。

そして、この若手が作陶、生活しやす
いように、なにがしかの援助をできる体
制づくり、これは行政の担当部分である
ように思います。やきものをつくってい
くには、どうしても設備投資が必要にな
ります。可能性がある若手には援助の手
を差し伸べられる体制が求められます。

さらに援助を受けれた上で、定住して
もらえるようにするには、自分の作品を
販売できる体制、販売網の整備が必要に
なります。よいやきものをきちんとした
価格で世の中に出していく体制が必要に
なってきます。

こんな環境が整ったら「セラミック・
ワンダーランド」ができた、といえるの

ンド」というのは、少し前の「産地」の
姿なのですが、いかがでしょうか。

今、確かに景気が悪い。あるいはやきも
のをめぐる社会環境が変わってしまった
こともありすべての環境、システムを「昔
どおりのやり方にもどします。」というわ
けにはいきません。

その前提で私の「夢」の計画をご紹介
したい。

この文章ができるのは1月号と聞いている
ので、まだ、「年始め」。これからの私
の夢を語っても怒られないでしょう。

まず、産地が持っている財産、資産の
確認が必要です。これは大きく二つに分
けられます。

ひとつは、物理的なこと。その工房、
工場はこんな機材をもっていて、こんな
特徴のある製品、作品がつけられる実績が
ある。そういった工房、工場、関連機関
の現状把握が必要だと思えます。

もうひとつは、人的資源の確認です。特
に60代以上のすでに第一線からリタイア
した人について。言ってみれば産地の人材
バンクの確立です。優れた技術を持っている
方、あるいは昔の話を知っている古老か

ではないかなあと思っています。

先に述べたように、産地あるいは地場
産業、地域産業、伝統産業といいかえて
もよいですが、なかなかむづかしい局面
にあると思います。どうしても、新しく
生まれてくる産業に行政も社会も目が向
いてしまいます。

このような環境の中で生き抜いていく
には、あたりまえのことですが、より高
品質なオンラインワンものをつくってい
かなくてはなりません。そうすれば、人
も集まってくるし流れも変わらと思うの
ですが、そのための「セラミック・ワンダー
ランド構想」いかがでしょうか。正夢に
したいと思っています。



長野スタジオ

新しいシガラキを創造する起点



シガラキ・シェア・スタジオの中心にあるのが「長野スタジオ」です。ここを起点に運営し、長期滞在を基本にした、陶芸家、美術家を受け入れています。

シガラキ・シェア・スタジオ 長野スタジオ概要

1人あたり約25平米のスペースを自由に
使っていただけます。(定員11人)

●住所

滋賀県甲賀市信楽町長野1140-1

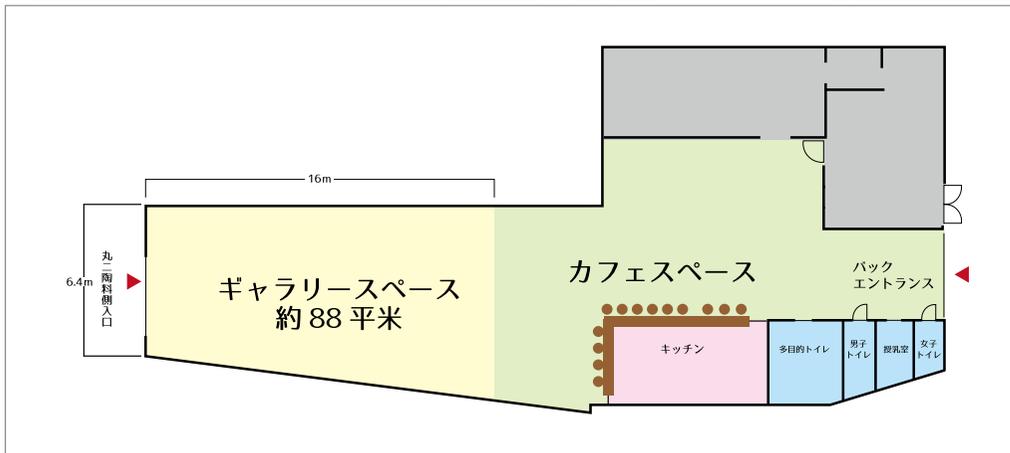
●建物

鉄骨2階建て及び平屋

●設備

1 立米ガス窯
3 キロ電気窯
4 キロ電気窯
12 キロ電気窯
15 キロ電気窯
セラローラー
真空石膏攪拌機
コンプレッサー
フォークリフト

など



ギャラリー

幅広いジャンルの作品・製品と出会う場



敏峰工房と協力企業

様々なことに挑戦できる環境

同じ信楽町内に第2のスタジオ「敏峰工房」もあります。
 大型の作品の焼成、原型から石膏型の制作、粘土での成形など、複数のメーカーに協力をいただいています。

シガラキ・シエア・スタジオ@敏峰工房 概要

住所

滋賀県甲賀市信楽町勅旨2380-2

設備

0.7立米ガス窯
 2立米ガス窯
 フォークリフト

など

※敏峰工房、各種窯などの業
 機材の借用、原型から石膏型
 の制作、土での成形の依頼な
 どについては、個別にご相談
 ください。

info@sss-shigaraki.com

ギャラリー&キッチン@シガラキ・シエア・スタジオは現代美術・工芸を中心に、幅広いジャンルの作品・製品と出会うギャラリーにしたいという想いでオープンしました。
 シガラキ・シエア・スタジオで制作をしているアーティストの作品を常設で展示し、ショップも運営していきます。また、発表の場を求めている作家、陶器関係者の方にも使っていただきたいと思っています。
 個展やグループ展、新製品の展示会、イベント、セミナーなどをお考えの方、どうぞお気軽にご相談ください。

ギャラリー&キッチン@シガラキ・シエア・スタジオ ギャラリー概要

住所

滋賀県甲賀市信楽町長野1140-1

展示スペース

全体で約88平米

● 展示台・パーテーション

(レンタルギャラリー部分30~40平米)
 各種あり(持ち込みOK)



楽しみながら、いろいろな事を試せる「ワーキングスペース」

「ギャラリー&キッチン@シガラキ・シェア・スタジオ」は、皆さんに使っていただくレンタルスペースです。いろいろなことを試みられる場所に育てていきたいと考えています。

将来、飲食店をやりたい人のトライアルの場、ポップアップショップ、地域で収穫した農作物を使った料理教室、陶産地信楽の特性を活かし、うつわを制作されている方と食品関連の仕事をされている方のコラボ、マーケティング調査の会場、プライベート・パーティー。などに使用していただければと思います。

スタジオ、ギャラリー、キッチンを併せ持つことで、いろいろな人が楽しみながら交流できる場所、ワーキングスペースになればよいのではというのが基本的な考えです。



ギャラリー&キッチン @シガラキ・シェア・スタジオ キッチン 概要

- 住所 滋賀県甲賀市信楽町長野1140-1
- 利用人数 30名まで
- 利用可能日時 (カウンター席10席、客席20席) 9時~23時
- 定休日 不定休(ホームページでご確認ください)
- 設備・厨房機
 - 業務用ガスレンジ
 - コンベクションオーブン
 - 製氷機
 - コーヒーメーカー
 - ミキサー
 - フライヤー
 - 圧力なべなどの鍋釜の類
 - イベント用の音響設備
 - プロジェクトアーク など

※ 信楽焼のうつわを使っていたいただけます。



法人概要

- **法人名** 一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ
- **所在地** 滋賀県甲賀市信楽町長野 1140-1
- **連絡先** 一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ
〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野 1140-1
TEL. 0748-82-0690
URL. <http://sss-shigaraki.com/>
E-MAIL. info@sss-shigaraki.com



- **事業概要**

1. 貸し工房の経営及び管理
2. 陶芸の振興に関する事業
3. ギャラリー等の小売業等での陶芸作品、製品の販売並びに輸出入
4. レンタルギャラリー・レンタルキッチン・飲食店の経営
5. 陶芸に関するアドバイス及びコンサルティング
6. 陶芸家、陶芸教室のプロモーション及びマネジメント
7. イベント、展示会、講演会等の企画、制作及び運営

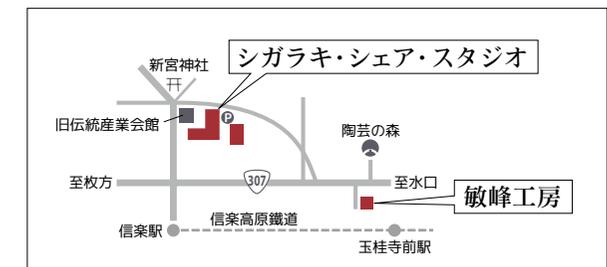
スタジオ所在地

シガラキ・シェア・スタジオ + ギャラリー & キッチン @ シガラキ・シェア・スタジオ

〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野 1140-1

シガラキ・シェア・スタジオ @ 敏峰工房

〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨 2380-2



お問合せ先

スタジオ、ギャラリー、キッチン等のお問い合わせ、使用申し込み等については、info@sss-shigaraki.com をお願いいたします。